《幼児教育》

幼児の表現する意欲を育てるための環境構成と援助の工夫

～　友達とイメージを共有する遊びを通して　～

那覇市立真和志幼稚園教諭　仲地　吉野

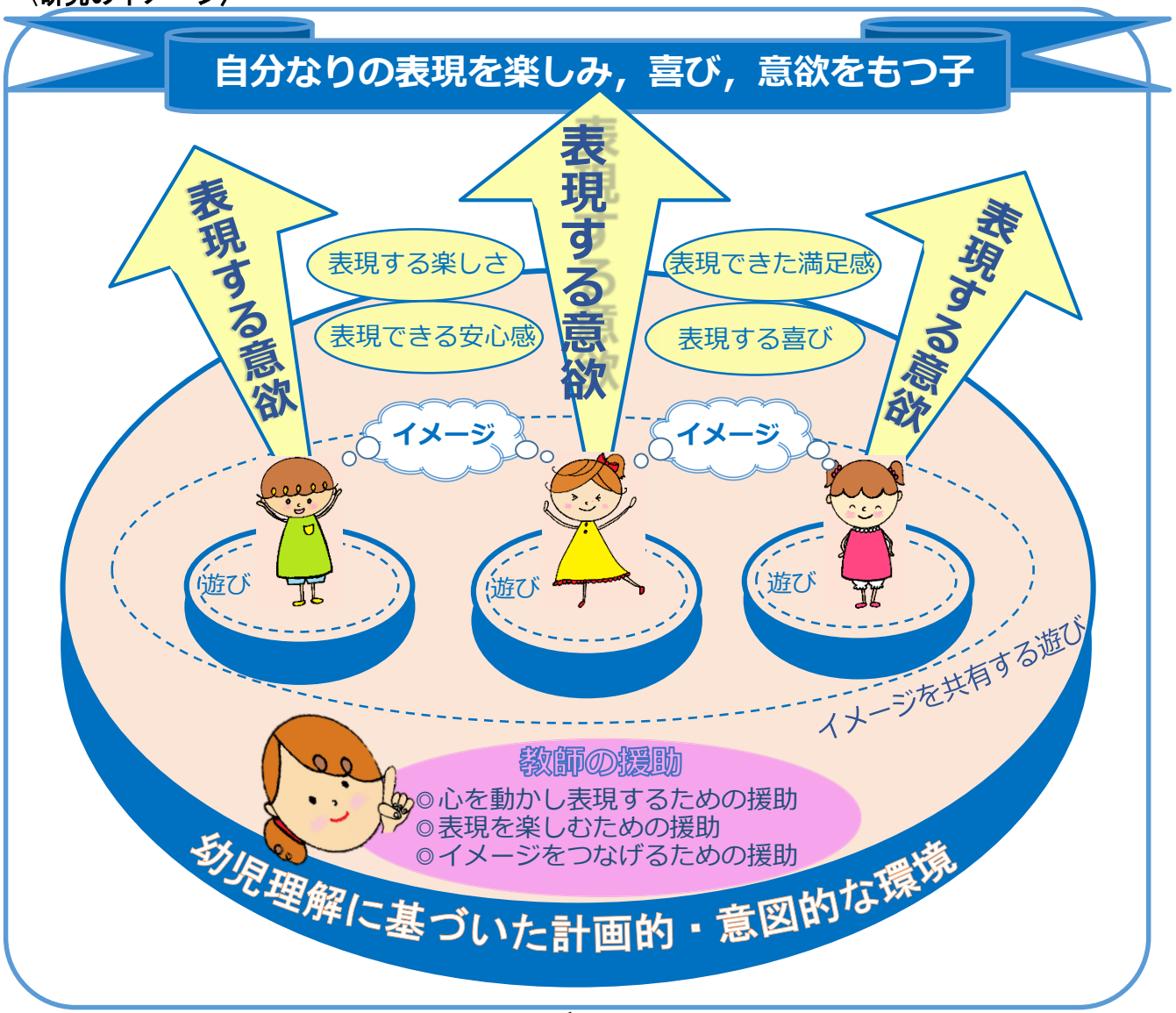
〈研究の概要〉

幼児理解に基づいて構成された環境の中で，幼児が教師や友達と体験や感動を共有し，自分なりの表現が受け止められる体験を重ねることは，幼児の表現する意欲に繋がると考える。

本研究は，幼児の表現する意欲を育てるため，幼児が自分なりの表現を楽しみながら友達とイメージを共有して遊びを進められるよう，教師が幼児一人一人の表現する姿を受け止め，幼児理解に基づいた環境構成と援助の工夫を行った。

幼児が自分なりの表現を楽しみ友達とイメージを共有することに視点を置いて，実践に取り組んだことにより，幼児の表現する意欲を育てることができたと考える。

〈研究のイメージ〉



Ⅰ　テーマ設定理由　25

Ⅱ　研究目標　25

Ⅲ　研究構想図　26

Ⅳ　研究内容　26
　１　表現する意欲について
　　（１）「幼児の表現する意欲を育む」とは
　　（２）「友達とイメージを共有する」とは
　　（３）幼児の「自分なりの表現」について

　２　環境構成と援助の工夫と幼児理解・評価について
　　（１）表現する意欲を育てるための環境構成と援助の工夫
　　（２）幼児理解・評価について

Ⅴ　保育実践　29
　１　保育計画
　　（１）幼児の実態（４月から９月までの育ち）
　　（２）保育計画

　２　実践１「イメージをもち，表現を楽しむ」(11 月下旬から 12 月初旬)
　　（１）環境構成と援助及び評価の視点
　　（２）幼児の変容
　　（３）実践１の考察（評価の視点を踏まえて）

　３　実践２「友達とイメージを共有して遊ぶ中で，自分なりの表現を楽しむ」
　　（１）環境構成と援助及び評価の視点　(12 月初旬～12 月中旬)
　　（２）幼児の変容
　　（３）実践２の考察（評価の視点を踏まえて）

Ⅵ　実践を通しての考察　32

Ⅶ　成果と課題　32
　１　成果
　２　課題
《主な参考文献》

《幼児教育》

幼児の表現する意欲を育てるための環境構成と援助の工夫
～　友達とイメージを共有する遊びを通して　～

那覇市立真和志幼稚園教諭　仲地　吉野

Ⅰ　テーマ設定理由

中央教育審議会「幼児教育部会における審議の取りまとめ」（2016）では幼児教育における見方・考え方について，幼児が身近な環境に主体的に関わり心動かされる体験を重ね，遊びや生活を発展させるためには，教師が幼児理解に基づいた環境構成をすることが重要であると示されている。また，幼稚園教育要領解説（以下，教育要領解説とする）第１章第４節３(2)「体験の多様性と関連性」では，幼児は「体験を共有し共感し合うことにより，新たな意欲を抱く」と示されている。つまり，幼稚園において，教師の幼児理解に基づいた環境の中で，幼児が教師や友達と関わり，心動かされる体験を共有し共感することが，幼児の活動する意欲につながると考えられる。また，教育要領解説第２章第２節５「表現」内容の取扱い(2)においては，幼児は「表現が教師や他の幼児などから受け止められる体験の中で，表現する喜びを感じ，表現への意欲を高めていく」と示されている。これらのことから，幼児理解に基づいて構成された環境の中で，幼児が教師や友達と感動や体験を共有し，自分なりの表現が受け止められる体験を重ねることは，幼児の表現する意欲に繋がると考える。

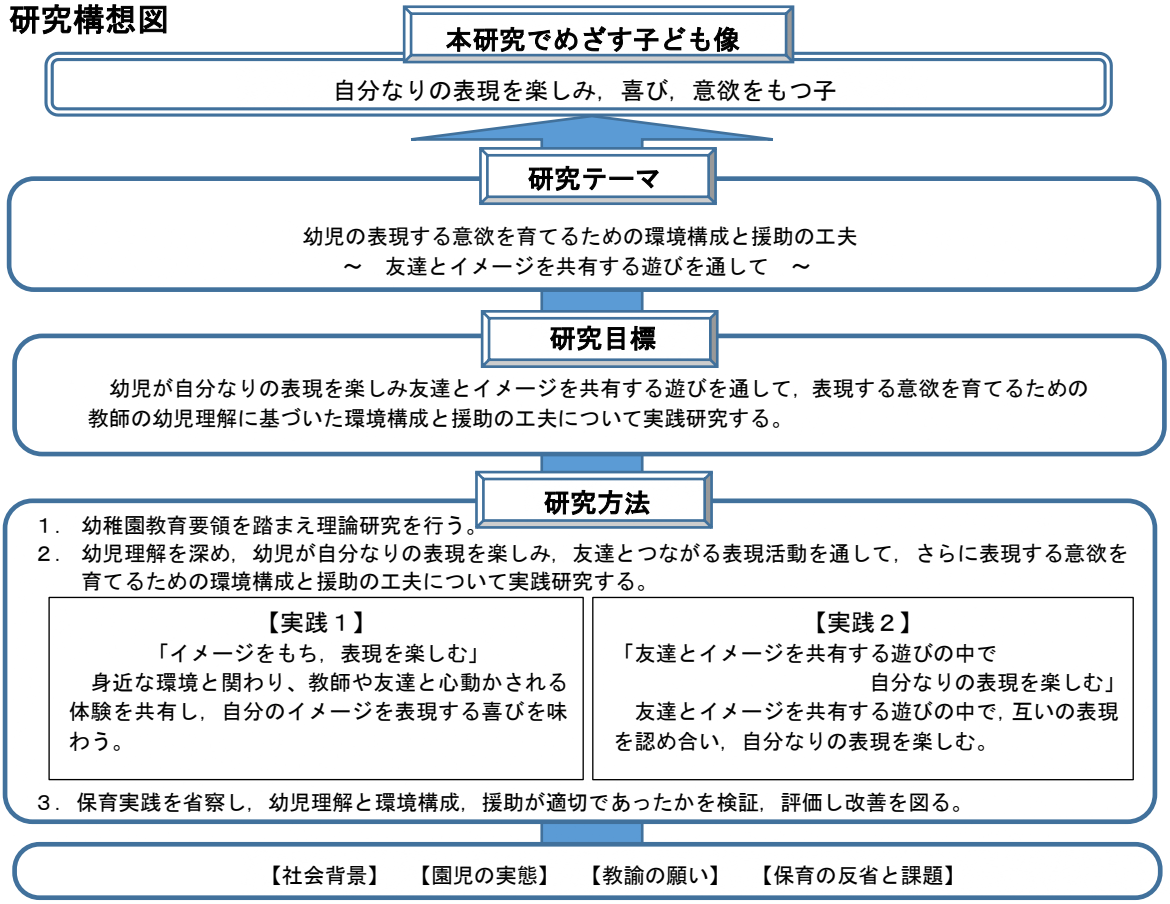
本学級（４歳児）の実態として，ごっこ遊びや模倣遊び，リズム遊びの中で何かを真似たり，再現したり，なりきって体を動かしたりすることを楽しむ姿が多く見られる。遊びの様子を見てみると，幼児は自分の興味関心のあるものに対してのイメージを表現して満足しているものの，遊びが断片的で，友達とイメージを共有して遊びのつながりを楽しむことは少ない。これまでの保育では，幼児の身近な環境や友達と主体的に関わる姿から，幼児が何を感じ取り，何を表現しようとしているかを捉えながら，個々の幼児理解に努め，その子らしい表現ができるよう環境構成と援助及び保育の反省・評価を行ってきた。しかし，幼児が友達との遊びの中で，自分のもっているイメージを共有したくなるような環境構成と援助が不十分だった。本園の教育課程の発達の過程では，Ⅳ期（4 歳児 10 月～12 月）を，友達とイメージを出し合って遊ぶ楽しさを味わい行動や興味関心が広がる時期であると捉えている。この時期に，幼児が教師や友達と体験を共有し共感し合い，個々の遊びが友達とイメージを共有させた遊びへ変化する中で，互いの表現を受け止め認め合い，響き合う体験を重ねることは，幼児の表現を豊かにし，表現する意欲の育ちに繋がると考える。

そこで，幼児が自分なりの表現を楽しみ，友達とイメージを共有して遊びを進められるよう，教師が幼児一人一人の表現する姿を受け止め，幼児理解に基づいた環境構成と援助の工夫を行い，さらに保育実践の反省･評価による保育改善を繰り返すことが，幼児の表現する意欲の育ちに繋がると考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究目標

幼児が自分なりの表現を楽しみ友達とイメージを共有する遊びを通して，表現する意欲を育てるための教師の幼児理解に基づいた環境構成と援助の工夫について実践研究する。

Ⅲ　研究構想図



Ⅳ　研究内容

１　表現する意欲について

（１）「幼児の表現する意欲を育む」とは

無藤（2018）によると，幼児の表現は「心の内面的な動きが外に現われること」とされている。つまり幼児の行動や主体的な活動としての遊びそのものが「表現」として捉えられる。教育要領解説では，幼児が自分の生活経験によって親しんだ具体的なものを手掛かりにして，イメージを形成すること，また，感じたことや考えたことを表現する姿は，これまでの家庭や幼稚園での生活経験によって様々であることが示されている。神長（2008）は，幼児の意欲を育むとは「意欲のない子に意欲を持たせることではない」とし，「その子らしい環境との関わりを受け止めることから，その子らしさを発揮する援助をしていくこと」と述べている。これらのことから，幼児の表現する意欲を育むためには，教師が一人一人の生活経験を理解した上で意図的・計画的な環境を構成し，環境と関わる一人一人の行動や遊びの姿から内面の動きに目を向け，どんな思いでその活動に取り組み，何を実現しようとしているのか，また何が育っているのかを捉え，個に応じた援助をすることが大切だと考える。幼児にとっての環境とは，身近な事象や事物，文化，自然，教師や友達の存在等であり，またそれらによって作られたものや関わりも環境となる。そこで，教育要領解説領域「表現」と『幼児期から児童期への教育』（国立教育政策研究所）を基に，幼児が環境と関わる中で表現する姿から内面の動きを幼児の思いとして捉え，図１を作成した。本研究は幼児が関わりたくなる環境を構成し，幼児の環境との関わり方や表現する姿から思いを捉え，一人一人の表現する意欲の育ちを読み取っていく。

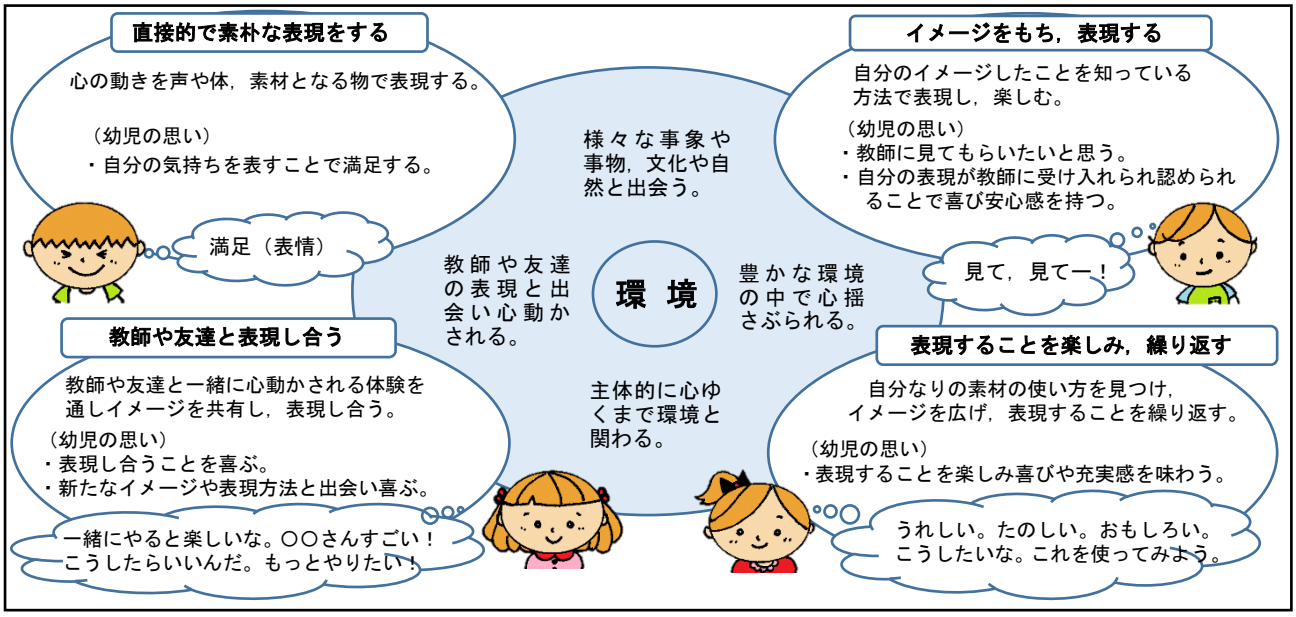


図１　　表現する姿から見取る内面の動き（筆者作成）

（２）　「友達とイメージを共有する」とは

教育要領解説「表現」内容に幼稚園で「共通の経験や感動を伝え合う中で，幼児は次第にイメージを共有し合い（中略），ときにはそれが断片的な遊びから，目的やストーリーをもった遊び方へ変化する」と示されている。友達とイメージを共有する遊びの中で，幼児は互いの表現を認め合い，自分の表現に自信をもったり表現の幅を広げたりすることで，さらに自分なりの表現を楽しみ，表現する意欲は育まれると考える。教師は，幼児のもっているイメージがどのように遊びの中で表現されているのかを理解し，幼児がその世界を表現することを十分楽しみ，友達とイメージを共有できるような環境構成と援助の工夫をしていくことが重要であると考える。

（３）　幼児の「自分なりの表現」について

教育要領解説に，幼児は自分なりの表現を他から受け止められる体験を繰り返す中で，安心感や表現する喜びを感じ，それが表現する意欲に繋がることが示されている。保育実践用語辞典によると「自分なり」とは「能力・特性に応じて」，「幼児の意図をもって（中略）そこには主体性が確保されている」と記されている。また，「主体性」とは「自分の考えで判断し，自分の意志で行動を選択しようとする傾向や能力」と記されている。よって本研究では，幼児が身近な環境の中で心揺さぶられ感じ取ったことなどを，これまでの経験で習得した用具の使い方や素材の特性を生かして「自分でやりたい表現」「自分にできる表現」を「自分なりの表現」と捉える。つまり，幼児が様々な素材や方法に出会い，自分の気持ちを一番適切に表現する方法を選び，自分なりの表現ができるような環境を構成することが重要である。本研究は，幼児が自分なりの表現をしながら，友達とイメージを共有し遊びを進める中で，教師や友達と表現を認め合い，自分の表現に自信をもったり，新たな感動や表現方法に出会い自分なりの表現の幅を広げたりできるような環境構成と援助について実践研究をしていく。

２　環境構成と援助の工夫と幼児理解・評価について

（１）表現する意欲を育てるための環境構成と援助の工夫

『幼児期から児童期への教育』では，「教師が幼児一人一人が表現しようとしていることを読み取り，それを幼児が様々な形で表現できる環境を整えていくことが必要」と示されている。幼児が

環境に関わって遊ぶ姿から，心を動かす出来事に出会い，感じたことや考えたことを自分なりに表現する【視点 1】，感じたこと，考えたことを音や動きで表現したり，絵に描いたり，物を作ったりして様々な表現を楽しむ【視点 2】，さらに，友達とイメージを共有させた遊びの中で表現し合うことを楽しむ【視点 3】の３つの視点で表現する姿を捉え，幼児が表現するための環境構成と援助について表１を作成，活用し保育実践を行う。幼児は，これらの表現を繰り返したり，相互に関連させたりすると考え，これらの視点は，発達や表現する力の順序を示すものではないものとする。

表１　環境構成と援助の工夫と予想される幼児の姿（筆者作成）

環境構成と援助の視点	○環境構成の工夫	◎教師の援助の工夫	☆予想される幼児の姿
【視点 1】 心を動かし表現する ・やりたくなる ・安心 ・喜び	○興味関心を引き出すような魅力ある豊かな環境を構成する。 ・普段の生活や遊びにちなんだ掲示物の工夫，絵本や音楽，道具等を用意する。 ・心ゆくまで対象と関わることを楽しむための十分な時間と空間の確保をする。	◎環境と関わり心動かす様子を見守り，共感し，認め，安心感をもてるようにする。 ・一緒に遊ぶ楽しさを共有する。 ・教師自身の感動を表現する。 ・幼児が何に心を動かし，何を表そうとしているのかを受け止める。 ・「やりたい」という気持ちを受け止める。	☆主体的に環境と関わり，自分なりのイメージをもつ。 ・心ゆくまで対象と関わり不思議さや面白さを感じ表現したくなる。 ・自分の表現が教師に受け入れられ，認められることで喜び，安心感をもつ。
【視点 2】 表現を楽しむ ・夢中になる ・繰り返す ・工夫 ・満足	○イメージを広げ，様々な方法で表現できるような環境を構成する。 ・表現を楽しむための十分な時間と空間の確保をする。 ・活動しやすい動線に配慮する。 ・イメージを実現するために必要な用具や素材を幼児と相談しながら準備する。 ・素材の性質の違いに気づき，選べるような置き方の工夫をする。	◎表現しようとしていること（内容）を捉え必要な援助をし，表現する喜びや充実感を味わえるようにする。 ・幼児の思いや考えを引き出す。 ・イメージや表現を受け止め，認める。 ・アドバイスをしたり，共同作業者になったり，モデルとなったりする。 ・素材の材質，形態，使いやすさを考慮し用意する。	☆イメージを自分なりの方法（言葉や動き，製作等）で表現し楽しむ。 ・様々な素材に触れ，選択し，遊びに取り入れようとする。 ・素材の特質を知り，それらを生かしながら工夫し，具体的なイメージの実現に近づける。 ・自分なりの表現を繰り返し，満足する。
【視点 3】 イメージをつなげる ・友達と一緒に ・続ける ・新たな発見 ・変化	○幼児が互いのイメージの表現を見たり聞いたりできるような場や物の配置に配慮する。 ・個々の幼児のイメージを知らせる時間と場を設定する。 ・幼児の製作物（表現したもの）等を展示し，幼児がイメージを共有し，遊びにつながりをもてるようにする。 ・遊びや表現の足跡を残し，遊びをつなげたり，続けたりできるようにする。	◎友達とイメージを共有し，表現し合うことを楽しめるようにする。 ・友達の表現する姿に気付かせる。 ・幼児の表現を教師が仲立ちとなって周りの幼児に伝え，イメージを共有させたり，新たな表現方法に気付かせたり，認め合ったりできるようにする。 ・感動をみんなで共有したり伝え合ったりする振り返りの場を設定する。 ・教師も一緒に表現する。	☆イメージを共有する。 ・共通の経験や感動を伝え合い，遊びをつなげる。 ・互いの表現を認め合い，友達と一緒に表現し合う喜びを味わう。 ☆表現の幅を広げる。 ・友達の表現に触れ新たな表現方法を知り自分の表現を変化させる。 ・自分と同じ表現に触れ自分の表現に自信をもつ。

（２）幼児理解・評価について

『幼稚園教育指導資料第3集』（文部科学省）によると，幼児を理解するとは「一人一人の幼児の言動や表情から，思いや考えなどを理解し，受け止め，その幼児のよさや可能性を理解しようとすること」と記されている。また，保育における評価については「幼児の発達する姿をとらえることとそれに照らして教師の指導が適切であったかどうかを反省・評価すること」の大切さが示されている。本研究では，幼児の姿から幼児理解を深め，ねらいと内容を設定しそれに基づいた環境構成と援助を行う。保育後に記録や他教師との保育カンファレンス等を通し，幼児の変容とその姿が生み出されてきた様々な状況を多面的に捉え，反省・評価を行い保育改善に生かす。幼児理解と評価について，図２を作成し，研究に活用していく。

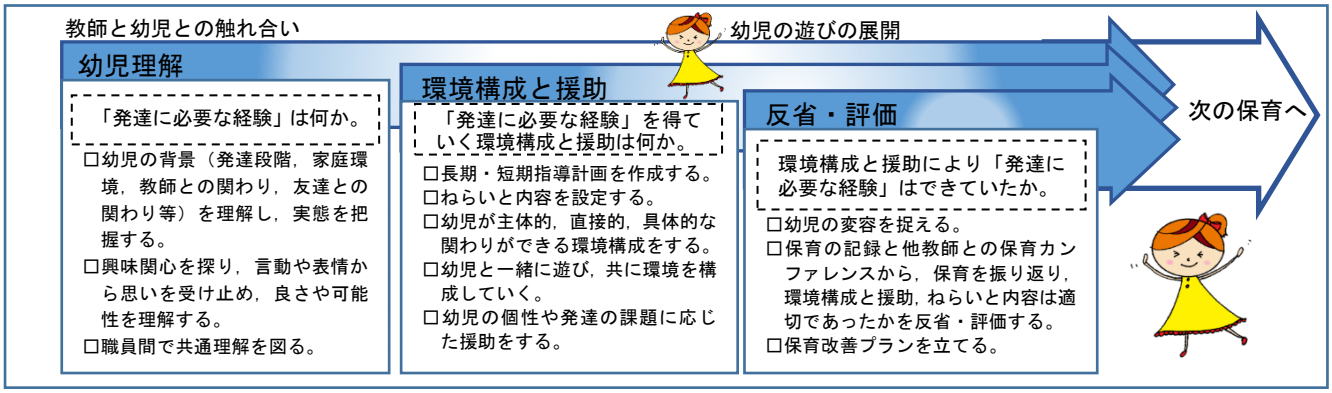


図２　　幼児理解と評価（筆者作成）

Ⅴ　保育実践

１　保育計画

（１）　幼児の実態（４月から９月までの育ち）

Ⅰ期 ４～５月	☆園生活に戸惑いながらも，新しい環境に興味をもっていた。 ☆園生活の仕方が分かり，自分のことを自分の力でできるようになり，喜んでいた。 ☆好きな遊びを見つけて楽しみ，５月中旬から安心した気持ちで園生活を送れるようになった。
Ⅱ期 ６～７月	☆はさみ，のり，テープなどの使い方が分かり，必要なときに必要な用具を選び，使うことができるようになった。 ☆積み木やブロック，空き箱等を利用して，一人一人が見立てを楽しんでいた。 ☆クラスでダンスやゲームをすることを喜び楽しんでいた。しかし，同じ場にいながらも楽しめない幼児の姿もあった。
Ⅲ期 ８～９月	☆自分の好きな遊びに夢中になり，繰り返し楽しんでいた。 ☆友達と一緒に過ごすことや言葉を交わすこと，一緒に体を動かし表現することを喜んでいた。 ☆絵本の読み聞かせを楽しみにし，みんなで声を合わせたり教師を真似たりしながら楽しんでいた。 ☆空き箱をそのまま車と見立て，手に持って遊ぶ単純な遊びが，「○○をするための車」と目的をもちタイヤやハンドルを付けそれらしく見えるような工夫をするなど，遊びが複雑になってきていた。 ☆友達と同じ場で遊び，同じ物に触れ，部分的に共通のイメージをもち一緒に遊びながらも，一人一人がなりきってそれぞれのイメージを表現することで満足している。そのため遊びが断片的で，友達とつながりのある遊びを楽しむことは少ない。

（２）　保育計画

幼児理解を深め，発達の過程に応じた実践となるよう，11 月下旬から 12 月初旬の期間を実践１，12 月初旬から 12 月中旬を実践２とし，実践に取り組んだ。

実　践	ね　ら　い（○）　内容（・）
【実践１】 「イメージをもち，表現を楽しむ」	○イメージをもち，表現する楽しさを味わう。 ・自分のイメージをもち，それになりきって動き，表現することを楽しむ。
【実践２】 「友達とイメージを共有する遊びの中で 自分なりの表現を楽しむ」	○友達とイメージを伝え合いながら，一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう。 ・イメージしたことを自分なりの動きや言葉などで表現する楽しさを味わう。 ・友達と遊びを進める中で新たなイメージや表現方法に出会い自分の遊びに取り入れる。

２　実践１「イメージをもち，表現を楽しむ」（11 月下旬から 12 月初旬）

（１）　環境構成と援助及び評価の視点

実践１では，秋の遠足で動物園に行く計画があることから動物に関する絵本の読み聞かせや動物コーナーの設置を通し，幼児が動物に対するイメージを膨らませられるよう環境構成と援助を行った。また実際に動物園に出かけ，観て，感じたことを自分なりに表現できるよう環境構成と援助の工夫を行った。共通体験や感動を伝え合う場として学級の活動の時間を設定し，その中で教師が一人一人の表現を認め，それらの表現を具体的に言葉で表すことで，幼児がもっているイメージを周囲の幼児に知らせる援助をした。保育終了後には，遊びの様子の写真を掲示し，幼児が遊びを振り返り，イメージの共有や次の遊びへの期待に繋げられるようにした。また，写真による記録と他教師との保育カンファレンスを基に，幼児理解を深め，環境の再構成及び援助の工夫を行った。

<table>
<tr><th>環境構成と援助の視点（表１より）</th><th>○環境構成</th><th>◎教師の援助</th></tr>
<tr><td>【視点 1】
心を動かし
表現する
・やりたくなる
・安心・喜び

【視点 2】
表現を楽しむ
・夢中になる
・繰り返す
・工夫・満足

【視点 3】
イメージを
つなげる
・友達と一緒に
・続ける・変化
・新たな発見</td><td>遠足前
○遠足前に，動物に興味関心をもてるよう，学級の活動の時間に動物に関連する絵本の読み聞かせの時間を設定する。絵本『ぞうのボタン』【視点１】
○友達の表現を見たり，聞いたりできる時間を確保する。【視点 3】
○動物コーナーを設置し，読み聞かせをした絵本，動物に関する図鑑やパズル，折り紙等を配置し，幼児が心ゆくまで関われるようにする。【視点 1･2】

遠足後
○動物園への遠足後，絵を描き，一人一人のイメージを教師や友達と共有できるよう掲示する。【視点 2･3】
○絵本に出てくるボタンのついた洋服を用意し，保育室において，誰でもいつでも何度でも，動物に変身して遊べるようにする。【視点 2】</td><td>◎幼児が絵本の世界を楽しんだり，動物のイメージを膨らませたりできるようにする。【視点 1】
◎思い思いに言葉を発したり，体を動かしたりできるようにめくる速さやタイミングに気を付ける。【視点 2】
◎幼児の表情，言葉，動きを見て，一人一人の心の動きを読み取りながら読み聞かせを行う。【視点 1】
◎うなずいたり，幼児の発言を繰り返したりしながら幼児のイメージや表現を受けとめ，認める。【視点 1】

◎一人一人の絵や動きから，イメージを聞き出したり，言葉にできない子の表現を読み取ったりしながら，具体的な言葉で認める。【視点 2】
◎幼児の表現しようとしていたことを読み取り，教師が具体的な言葉で表し，他の幼児に伝え，イメージを共有できるようにする。【視点 3】</td></tr>
<tr><td colspan="3">＊保育終了後，遊びの様子の写真を掲示し，幼児が遊びを振り返り，イメージの共有や次の遊びへの期待に繋げる。【視点 3】
＊保育終了後，記録と他教師とのカンファレンスを通し幼児の変容を多面的に捉え，保育改善を行う。</td></tr>
<tr><td>評価の視点</td><td colspan="2">・興味関心を引き出し，イメージを膨らませるような環境構成や援助ができているか。
・一人一人の表現しようとする姿や，何を表現しようとしているのかを読み取り，認め，共感できているか。</td></tr>
</table>

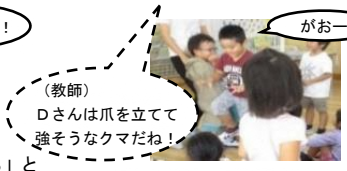
（２） 幼児の変容

幼児の変容

☆生活や行事にちなんだ環境に興味関心をもち，積極的に環境に関わり，図鑑や絵本を見たり，変身洋服で繰り返し遊んだりする姿が多く見られた。
☆絵本やお話づくりの流れに合わせて「さるは，こうするんだよ！」と自分のイメージを表現する幼児の姿が見られた。
☆表現する友達の姿を見て「自分もやりたい」「おもしろそう」「ぼくは○○になりたい！」と，真似たり，見せ合ったりと，意欲的に表現し，笑顔を見せ喜ぶ幼児が増えた。

絵本の世界を楽しみ，自分のイメージを表現している幼児とその姿を見ている幼児

「やってみたい」「自分だったら」という思いが生まれ，変身して動物の表現を繰り返し楽しむ幼児の姿



幼児のイメージを言語化し，イメージを共有する。

友達の表現を見て，真似て，一緒に表現することを喜ぶ。

抽出児の変容

	9月までの様子	実践１を通しての変容	評価（★教師の見取り　●保育の反省　◇保育改善プラン）
A児	・空き箱や様々な素材を利用して，組み合わせ方等を工夫しながらイメージした物を作ることを楽しんでいる。 ・友達と一緒に遊んでいるが，個々の動きが中心で，話の設定や方向性は見られない。	・友達の表現する姿を見て，自分のイメージを言葉にしたり，表現したりして楽しんでいる。また，「うさぎの耳作りたい」と，より具体的な表現へ意欲的である。	★（視点1･環境により）環境に興味関心をもち，（視点２・援助により）イメージを自分なりに表現できることを喜んでいる。 ●（視点3･環境，援助により）本児の表現を楽しむ姿は周囲の幼児にとって刺激となり，表現することの喜びや楽しさを伝えることができた。 ◇本児の具体的なイメージを様々な方法で表現できるよう環境を構成する。さらに友達の表現に気付き，互いの表現を認め合い，一緒に遊びを進める楽しさを味わえる援助を行う。→（視点３・環境，援助へ）
B児	・絵を描く，絵の具を使って遊ぶなどの製作活動に積極的に取り組むようになった。描いた絵を教師にうれしそうに見せるが，何（誰）を描いたなど自分の表現したものを話したりすることはない。	・表現することを楽しんでいる友達の姿を見ているが，本児に動きはなく，表情もあまり変わらない。	★（視点3･環境，援助により）表現している友達の姿は本児にとって魅力ある環境となり，興味をもって見ていた。 ●（視点1･環境により）学級全体の活動の場では，動きのない本児の思いを読み取ることができなかった。 ◇言葉や表情で積極的に表現できない本児の少しの変化を見逃さず，思いやイメージを捉え受け止めることで，本児が安心してイメージを表現する楽しさや充実感を味わえるようにする。→（視点１・援助へ）
C児	・絵を描いたり積み木を並べたりするなど，友達の様子を見て同じ動きをしながら，安心感をもって一緒に過ごしている姿が見られる。 ・自分の思いやイメージしたことを積極的に教師や友達に伝えたりすることは少ない。	・絵本の読み聞かせや表現している友達に目を向け，笑顔を見せている。 ・周りの子は立ち上がり，体を動かして表現するが，本児はその様子を見ている。	★（視点１･援助により）ページをめくる度に本児の笑顔が見られたことから，イメージを膨らませ楽しんでいた。 ●（視点1･環境により）学級全体で表現する場では，本児にとってイメージを表現したい方法がなかったと考える。 ◇本児のやりたい表現ができる環境構成と表現を認める援助をすることで，安心し喜んで意欲的に表現できるようにする。→（視点２･環境，援助へ） ◇本児と友達の遊びにつながりをもたせる環境構成をすることで，一緒に遊びを進める楽しさを味わえるようにする。→（視点２，３･環境，援助へ）

（３） 実践１の考察（評価の視点を踏まえて）

幼児の発達や興味関心，生活や行事を踏まえ，幼児が繰り返し関わることができる環境構成は，幼児の心を動かし，イメージをもって表現しようとする姿に繋がった。さらに，幼児一人一人がイメージを膨らませたり，表現したりする姿を見守り，共感し，認める援助をしたことで，幼児は安心感をもち，表現できたと考える。また，友達の表現を真似て一緒に表現する幼児も多くいたことから，幼児が互いの表現を認め合ったことが読み取れる。動物コーナー設置等の物的環境だけでなく，表現している幼児とその表現を認める教師や友達の姿そのものも環境となり，それらが幼児の安心感や自信，表現する意欲に繋がったと考える。幼児が主体的に関われる環境構成と，幼児のイメージや表現を受け止める教師の援助は，幼児が安心感や自信をもってより表現することを楽しむ姿に繋がった。

３　実践２「友達とイメージを共有して遊ぶ中で，自分なりの表現を楽しむ」

（１） 環境構成と援助及び評価の視点　（12月初旬～12月中旬）

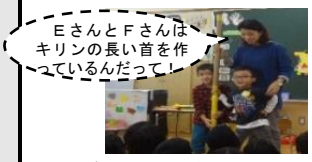
個々の幼児の表現したいことを読み取りながら，幼児が共通のイメージをもった友達と遊びをつなげ，広げられるような環境構成と援助の工夫を行った。保育終了後に，遊びの過程やイメージを可視化した写真を掲示し，幼児が遊びを振り返り，友達とイメージを共有したり次の遊びへの期待に繋げたりできるようにした。さらに，実践１の保育の反省・評価を基に保育改善を行い，幼児がこれまでの共有した体験でもったイメージを，一人一人が自分なりの方法で表現し遊びを進められるよう環境構成と援助を行った。

環境構成と援助の視点（表１より）	○環境構成	◎教師の援助
【視点 1】 心を動かし 表現する ・やりたくなる ・安心・喜び 【視点 2】 表現を楽しむ ・夢中になる ・繰り返す ・工夫・満足 【視点 3】 イメージを つなげる ・友達と一緒に ・続ける・変化 ・新たな発見	○友達の表現への気づきや幼児同士の対話，遊びへの期待に繋げられるよう，遊びの様子の写真の掲示や作った物の置き方の工夫をする。【視点 1】 ○動物に関する音楽をかける。【視点 1】 ○表現に必要な物を作れるよう用具や素材を幼児と相談し，一緒に用意する。また，素材の数や種類を揃え，素材の違いに気づけるような置き方の工夫をする。【視点 2】 （空き箱，プラスチック容器，筒，画用紙，カラーポリ袋等） ○試したり，工夫したりするための十分な時間と場の確保をする。【視点 2】 ○コーナーの設置（粘土の動物園，バスの駐車場等）で個々が取り組んでいる遊びをつなぎ合わせたくなるようにする。【視点 3】 ○遊びがつながったり広がったりするように，積み木，粘土，折り紙コーナーを動物園のコーナー近くに配置する。【視点 3】 ○友達のイメージや表現に気づき，新たな表現方法に触れ，自分もやってみようとしたり自分の表現に自信をもったりできるような活動のコーナーを設置する（ダンス，製作，粘土等）。【視点 3】	◎朝の会等で前日の遊びを紹介し，友達の表現を見て今日の遊びに期待や意欲をもたせる。【視点 3】 ◎教師と幼児との対話や幼児同士の対話から，幼児が何からどんなイメージをもち，何を表現しようとしているのかを読み取り，認め，幼児が自信をもって表現できるようにする。【視点 2】 ◎一人一人の表現を受け止め，認める声かけをする。共同作業者としてイメージを引き出したりつなぎ合わせたり，認めたり提案したりする。【視点 3】 ◎幼児同士が表現し合う楽しさや認め合う言葉に共感する。（うなずく，拍手する等）【視点 2】 ◎幼児と一緒に遊びを振り返り，遊びの中での気付きやつぶやきを教師が仲立ちとなって周りの幼児に伝え，感動やイメージを共有できるようにする。【視点 3】
	＊保育終了後，遊びの様子の写真を掲示し，幼児が遊びを振り返り，イメージの共有や次の遊びへの期待に繋げる。【視点 3】 ＊保育の様子の写真を玄関に掲示し，遊びから見られる幼児の変容や何が育とうとしているのかを知らせ，保護者と子ども，保護者と教師，教師同士の対話に繋げ，幼児理解を図る。 ＊保育終了後，記録と他教師とのカンファレンスを通し幼児の変容を多面的に捉え，保育改善を行う。	
評価の視点	・幼児の表現しようとする姿を捉え，個に応じた援助はできているか。 ・イメージを共有する環境構成と援助になっているか。 ・遊びを振り返り，明日の活動へ期待を持てる環境構成と援助はできているか。	

（２） 幼児の変容

幼児の変容

☆友達の表現の紹介や写真の掲示による振り返りで「自分もやりたい」と意欲的に表現しようとする幼児が増えた。
☆体を使って動物を表現する，音楽に合わせて踊る，粘土で表現したい動物を作る，空き箱等を組み合わせて動物を作るなど，一人一人が自分にできる（やりたい）表現を見つけ，納得いくまで取り組み楽しんでいた。
☆個々の動物作りの遊びから，数人での動物園作りへと遊びが発展し，さらに，動物園への遠足ごっこが始まるなど，共通の目的やストーリーをもった遊びへと広がっていった。
☆素材や用具の特質に気付き，友達と情報を共有しながら自分の遊びに取り入れる幼児もいた。



遊びを紹介し（振り返り），イメージを共有できるよう援助する。

友達の表現に触れて，自分の表現方法に取り入れる。

個の粘土遊びをクラスの動物園に展示したことで遊びが発展した。

教師が共同作業者として遊びに参加しイメージをつなぐ。

抽出児の変容

	実践２を通しての変容	評価（★教師の見取り　●保育の反省　◇保育改善プラン）
Ａ児	・同じイメージをもった友達と一緒に，繰り返し音楽に合わせ動いたり踊ったりして楽しんでいる。 ・動物園の看板作りを始めたり，変身できる魔法のつえを作ったり，言葉を考えたりするなど，友達と自分のイメージをつなげたり，新たな表現をしたりして，遊びを広げていた。	★（視点 2･環境により）自分のやりたい方法を選び，表現を繰り返す中で，自分のイメージや表現の幅を広げ，意欲的に遊びに取り組んでいた。 ★（視点 3･環境により）同じイメージをもった友達が側で遊んでいることで，自分の表現を十分楽しみながら，友達の表現する姿に気付き，新たな遊びを提案したり，一緒に考えたりしながら遊びの場や流れを作り出していた。 ●（視点 3 環境･援助により）友達とのつながりを感じ，一緒に遊びを進める楽しさを味わうことができた。 ◇幼児同士の表現が影響し合い，本児の表現をさらに豊かにできるよう学級全体での「振り返りの場」の工夫をする。→（視点 3･環境，援助へ）
Ｂ児	・絵本や図鑑から自分のイメージに合ったものを探し，教師や友達にやりたいことを伝えるようになった。 ・友達が製作したものや表現する姿を見ながら，自分のイメージした表現になるよう，素材を選び何度も試したり工夫したりするようになった。	★（視点 1･援助，視点 3･環境により）同じイメージをもって遊んでいる友達がいることで安心して遊びに加わり，本児なりの表現をしようとする意欲に繋がった。 ●（視点 2･環境，視点 3･環境により）自分のイメージしていた表現が上手くできなかったときに，同じイメージをもって遊んでいる友達と自分のものとの違いに気付き，新たな方法を知ったことで，素材を選び直し，納得いくまで繰り返し挑戦できたと考える。 ◇本児の表現が周囲の友達からも認められるような援助をすることで，より安心し，自信をもって，自己表現できるようにする。→（視点 2･環境，援助へ）
Ｃ児	・粘土を使って自分なりの表現をして満足している姿が見られた。友達と動物園作りが始まり，他の素材での動物作りの他，遠足ごっこなど友達とイメージを共有した遊びが進められるようになった。 ・教師や友達に認められたことを喜び，さらにイメージを膨らませ，積極的に教師や友達にイメージを知らせたり作った物を見せたりするようになった。	★（視点 2･環境により）自分の得意な方法を選び表現できることを喜び，楽しんでいた。 ★（視点 2･援助，視点 3･環境により）何を表現しようとしているかを捉え，同じイメージをもった友達との関わりがもてるよう，個人の粘土板の上だけで表現していたものを保育室の広いスペースに移したことで，友達とイメージを共有し，一緒に動物園作りや遠足ごっこを進められるようになった。 ●（視点 3･環境，援助により）自分の表現に自信をもち，新たな表現方法に出会い自分の表現に取り入れながら，主体的に表現遊びに取り組む姿に繋がった。 ◇振り返りの場等で，本児の表現が友達からも認められることで，表現をさらに豊かにし，自信をもって自己表現できるよう援助する。→（視点 2，3･環境，援助へ）

（３）実践２の考察（評価の視点を踏まえて）

友達がもっているイメージや表現に気付き，イメージを共有させた遊びにつながるよう，教師が遊びの様子や表現を伝える援助と，活動の写真掲示や製作物等の展示，遊びを広げられる空間（コーナー）を設置するなどの環境構成を行った。個々の遊びが数名での動物園作りへ発展し，さらに，共通体験を基にした動物園への遠足ごっこが始まるなど，共通の目的やストーリーをもった遊びへ変化していたことから，一人一人が自分なりの表現を楽しみながら，友達にイメージを伝え，表現し合うことで，動物や遊びのイメージを共有していたことが読み取れる。その中で，友達のもっているイメージや表現に触れ，新たなイメージや表現方法に出会い，自分の遊びに取り入れながら遊びを広げていく姿が見られた。また，様々な用具や素材を用意し，幼児がこれまでの経験を生かし，選び，工夫したり，試したりできる時間と場所を設定したことは，幼児が自分なりの方法で，表現を十分楽しむ姿に繋がったと考える。今後は，さらにより多くの幼児の興味関心を広げたり，イメージを共有したりできるように，遊び直後に学級全体で振り返りの場を設定する等の工夫が必要ではないかと考える。

Ⅵ　実践を通しての考察

本研究では，幼児一人一人の環境との関わり方や表現する姿から思いを捉え，幼児が自分なりの表現を楽しみ友達とイメージを共有する遊びを進められるよう環境構成と援助の工夫を行った。実践１では，幼児が興味関心をもって主体的に関われる環境構成と，一人一人のイメージや表現を認める援助により，幼児はイメージをもち表現する楽しさを味わうことができたと考える。また，実践２では，幼児が友達とイメージを共有させ遊びを進められるような環境構成と援助をしたことで，幼児は友達がもっているイメージや表現に気付き，イメージを共有し一緒に遊びを進める楽しさを味わうことができた。その中で，自分の表現に自信をもったり，新しい表現方法に出会い自分の表現の幅を広げたりしながら，表現をより楽しむことができたと考える。これらのことから，幼児が友達とイメージを共有させた遊びの中で，互いの表現を受け止め認め合い，響き合う体験を重ねるための環境構成と教師の援助は，幼児の表現を豊かにし，表現する意欲の育ちに繋がったと考える。

Ⅶ　成果と課題

１　成果

（１）幼児の発達，興味関心の対象，これまでの経験を踏まえた環境構成と援助は，幼児が教師や友達と体験や感動を共有し，自分なりの表現を楽しむ姿に繋がった。

（２）幼児が自分なりの表現を楽しみながら友達とイメージを共有させ遊びを進める中で，表現を豊かにしていたことから，教師が個々の幼児がもっているイメージを読み取り，遊びをつなげる環境構成と援助をしたことは，幼児の表現する意欲の育ちに繋がったと考える。

２　課題

（１）より多くの幼児が友達とイメージを共有する遊びを展開できるよう効果的な振り返りの場を考えていきたい。

（２）今後も幼児が様々な表現を楽しみ自ら発達に必要な経験を重ねていけるよう，さらに幼児理解を深め，保育実践の反省・評価を踏まえた環境構成や援助をしていきたい。

《主な参考文献》

『幼稚園教育要領解説』　文部科学省　フレーベル館　2018
『育てたい子どもの姿とこれからの保育』　無藤　隆　ぎょうせい　2018
『幼児期から児童期への教育』　国立教育政策研究所教育課程研究センター　ひかりのくに　2005